

令和6年度岡崎市教育研究大会レポート

1

18	学校図書館
----	-------

岡崎市立六名小学校 岡本 妃南美

2 研究テーマ

図書資料を活用し、進んで実生活に生かすことができる子の育成
－第1学年保健学習「ぐー・ぺた・びんで正しい姿勢」の実践－

3 研究概要

(1) 主題設定の理由

現代は、携帯ゲーム機やスマートフォン、タブレット端末などの普及により、それらの機器が子どもから大人まで幅広い世代で、身体にさまざまな悪影響を及ぼす可能性があると言われている。児童もタブレット端末を用いる学習が増え、一生を通じて大切にしなければならない身体に影響がないか、気をつけるべきことはないか意識をもたなければならない。

姿勢の悪さは、身体にあらわれる影響のひとつである。姿勢を正すことは、日々の生活の中で根気強く継続的に取り組むものである。悪い姿勢そのものは病気ではないが、その姿勢を続けることで内臓器官の働きが低下したり、視力が悪くなったりと、身体にさまざまな悪影響を及ぼすと考えられている。小学校低学年の今が正しい姿勢を指導する絶好の機会であり、健康的な身体づくりだけでなく、正しい姿勢を保つことで集中力の持続や字がきれいに書けるなど、学習の場で発揮できるよい影響も増えるであろう。

本研究では、『「ぐー・ぺた・びん」で正しい姿勢』の学習を通して、正しい姿勢をすることで身体にどんなよいことがあるのかを学ぶ機会としたい。また、図書資料を活用し、正しい知識や情報を得る場を設定することによって、知り得た情報を主体的に実生活に生かすことができるだろうと考える。本学級の1年生の子どもたちを対象として、子どもたちの発言する言葉や行動の変化の成長に視点を向け、図書資料の活用を取り入れた実践を行うことにした。

(2) 目指す子どもの姿

- I 図書資料を活用し、様々な考え方をもち、進んで実生活に生かそうとする子ども
- II 正しい姿勢を保つことを継続的に意識し、自らの身体を大切にしようとする子ども

(3) 研究の仮説と手立て

① 研究の仮説

仮説 I

多くの本に触れることのできる図書環境づくりや知り得た知識・情報から、新たに自分の考えがもてるような活動の工夫ができれば、進んで自らの実生活に生かしていこうとするだろう。

仮説 II

低学年の時期から、正しい姿勢を意識することの利点を学ぶ機会をつくることができれば、生涯大切にしなければならない自分の身体をより大事にしていこうとするだろう。

② 手立て

仮説Ⅰに対する手立て —自らの実生活に生かすことを目指して—

i) 図書資料の活用

本校では、毎月、読み聞かせボランティアの方々を招いての「読み聞かせ」を行っている。子どもの発達段階に合わせた読み聞かせしていただける。学級担任が、絵本の読み聞かせをすることも積極的に推進している。本研究では、紙芝居「せぼねのはなし」(童心社)の読み聞かせを通して、正しい姿勢の大切さを考える機会を設ける。また、教室に「姿勢に関する本」を多く配架し、児童が気軽に知識・情報を得られる環境をつくる。

ii) 専門的知識のある養護教諭から学ぶ

ゲストティーチャーを招いての学習をすすめることである。正しい姿勢がどのような利点につながるのか自分で考えるだけでなく、専門的知識のある養護教諭から学ぶ機会があるとより学びが深まると考える。

仮説Ⅱに対する手立て —自らの身体を大切にしていこうと継続する姿を目指して—

iii) 「ぐー・ぺた・びん」のわかりやすい言葉

「ぐー・ぺた・びん」のわかりやすい言葉を用いることである。「ぐー」は、お腹と背中にこぶし1つずつあて、適度な空間を保つための言葉として用いる。「ぺた」は、足の裏を床に着けることを示す言葉とする。「びん」は、背筋をのばす言葉として示していく。児童の姿勢が、崩れそうになる前に適切に声かけをする。児童たち自身で、この言葉が出せるよう繰り返し意識できる言葉とする。

iv) 学習形態の工夫

4人1組でのチーム学習を取り入れて学習をすすめることである。特に、低学年では、チーム学習で友達を見て真似ることを可とし、困ったときや自分の考え方が整理できないときに生かすようにする。自分の姿勢を友達に見てもらったり、友達に自らアドバイスしたりとかかわりあうことを通じて、正しい姿勢の持続につながると考える。

(4) 研究の実践と考察

●児童の実態と抽出児童

本学級の児童は、男子13名、女子14名の計27名で構成されている。元気よくあいさつすることや始業時刻には自分の席に素早く着くことなど、基本的な規律を守ることができ、小学校生活に十分慣れてきた様子である。学習に対しても意欲的に取り組む児童が多く、自分の意見を発表したいと前向きに発言する姿がある。国語科の漢字の学習と書写の書き方学習では、お手本をよく見て、丁寧に書くことを声かけしたり、正しい鉛筆の持ち方の確認をしたりしたところ、実践してみようとする様子が見られた。「もっと書きたい、もっとやってみたい」とつぶやく児童もおり、楽しく学んでいた。

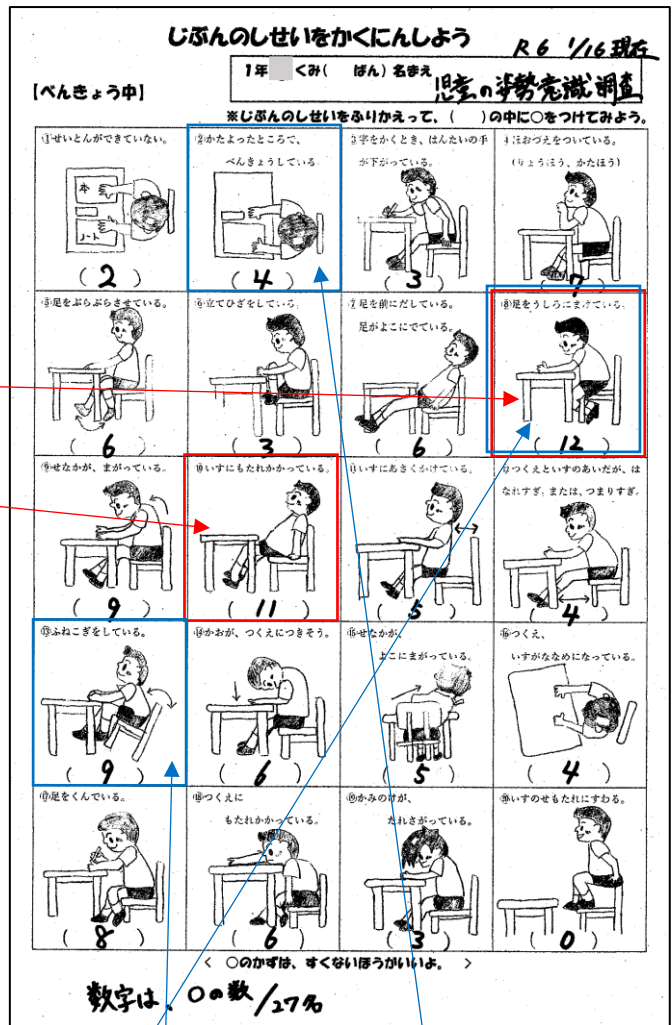
一方、授業終始の挨拶時や体育時の「気をつけ」の姿勢にふらつきが見られたり、座って文字を書く時の姿勢が猫背に曲がっていたりするなど、児童たちの身体の姿勢が気になる。座って学習す

る時に、頬杖をついたり、椅子の背もたれにもたれかかったりと、長時間正しい姿勢で身体を支持できていない児童もいる。事前に意識調査として、児童たちに「じぶんのしせいをかくにんしよう」【資料1】と題した座った姿勢のチェックを行った。結果からは、27人中12人が「⑧足をうしろにまげている」と最も多く回答があった。次に多く挙げられたのは、「⑩いすにもたれかかっている」が11人であった。結果を受け、授業時間45分間の中で、適度に姿勢を持続し、自らが意識をもてるかが課題である。

本単元を通して、正しい姿勢をつくることの大切さを学び、自分の身体を大切にしながら生活できる児童を育てたいと考えている。

【資料1】▶

「じぶんのしせいをかくにんしよう」の
集計結果 ※複数回答有り



次の児童Aの変容を中心に追いながら、研究の手立ての有効性を検証する。

抽出児童A： 意識調査「じぶんのしせいをかくにんしよう」では、「②偏ったところで、勉強している」「⑧足を後ろに曲げている」「⑬ふねこぎをしている」を回答。また、授業のときの姿勢は背中が曲がっていることがある。話を聞いていないわけではなく、意識しないと持続して正しい姿勢が保てない児童の一人である。病気ではない。

本の読み聞かせタイムが好きで、絵本の読み聞かせの際は、物語を集中して聞いている。図書資料を有効活用し、正しい姿勢を保つ意識が継続して、もてるとよいことを期待する。

●単元計画

学習課題	学習活動	時間
正しい姿勢で書こう	○正しい鉛筆の持ち方を確認し、字を書く。 ○「ぐー・ぺた・ぴん」の姿勢をする。	随時
立っているときの正しい姿勢をやってみよう	○正しい「気をつけ」の姿勢について知り、実践する。	随時
姿勢チェックをしよう	○姿勢について確認をし、自分の姿勢について意識をもつ。	随時

姿勢のお話を聞こう	○紙芝居「せぼねのはなし」(童心社)の読み聞かせを受けて、正しい姿勢の大切さを考える。	1
子どもの頭の重さを体感しよう	○頭の重さを知り、姿勢を正すことの難しさを知る。	1
なぜ正しい姿勢で書くとよいのか考えよう	○正しい姿勢を保つことで身体にどのようなよい影響があるか考えたり、書写体操の実践をしたりする。 ○正しい姿勢に気をつけながら書く	1/2 (本時)

●本時の学習

(1) 目標

- ① 正しい姿勢の在り方を知り、なぜ正しい姿勢で字を書くとよいのか考えることができる。
(思考・判断・表現)
- ② 姿勢が崩れてしまう友達に対して具体的にアドバイスしたり、友達の考えを受け入れたりして、積極的に正しい姿勢を保とうとする。
(主体的に取り組む態度)

(2) 「個別最適な学びを実現する」ための手立て

- ・授業中の自分の姿勢を知る場面を設定し、正しい姿勢をすることの利点をチームで考え、児童一人一人が、継続的によい姿勢を保つことができるようにする。

●本時の研究実践

①導入 姿勢に関する○×クイズに挑戦する

姿勢に関するクイズを行う前に、背骨や内臓の位置について共通理解をもたせるために、教師が手作りした背骨と内臓Tシャツ【資料2・3】を見せる。また、人体模型を用いて確認もする。児童Aは、うなずいたり、小声でつぶやいたりして反応が見られた。A⑧でつぶやいた「タコ」は、教室に配架していた姿勢の絵本に出てきた知識からである。児童Aは、事前に本を手にとって読んでいたことを生かすことができた。手立てi)



◀【資料2】
Tシャツ内臓側

◀【資料3】
Tシャツ背骨側

T①みんな 聞いていい? 授業記録1
せぼねってどこにある?
A①:(うなずく)
T②:先生の体のせぼね 見てくれる?
A②:見えない
T③:(Tシャツ準備)
A③:(笑)
T④:先生のせぼね。せなかにあるほねです。
ちょっと お友だちつれてきたの
A④:だれ?
T⑤:ジャーン。先生の友だち「ほねほねくん」です。
A⑤:(笑)
T⑥:頭の下のところからずーっとのびています。
これをせぼねといいます。

T⑦クイズです。第1問、 授業記録2
人はせぼねがないと走れない?
A⑥:(○のポーズ)
T⑧:○を貼る(○が正解)
A⑦:(よろこぶ)
T⑨:せぼねがあつて、運動ができます。
せぼねがない動物もいます。
A⑧:タコ。
T⑩:第2問、姿勢が悪いとお腹の調子が悪くなる?
A⑨:(○のポーズ)(○が正解で、よろこぶ)

②把握 本時の学習課題を確認する

「正しい姿勢で書くとなぜよいのか考えよう」と本時の学習課題を提示。悪い姿勢であるとうまくないことについては、見つけやすい分、マイナスなイメージをもちやすい。そこで、低学年の児童がすぐ真似したいと思えるようにプラスな視点「正しい姿勢がなぜよいか」について考えを深められる課題の設定を意識した。「ぐー・ぺた・ぴん」のわかりやすい言葉も活用。手立てiii)

③展開1 教師が座って書いているときの姿勢写真を見て、正しい姿勢についてチームで話し合う

教師が座って書いているときの姿勢写真（正しくない姿勢例）の載っているワークシート【資料4】を児童一人ひとりに配る。児童Aは、正しい姿勢にするとよいと思うところに3か所○をつけた。



授業記録3

T⑪:先生の書くときの姿勢見てくれる?
 A⑩:やばっ(正しい姿勢ではないと判断)
 T⑫:どう?書くときの姿勢できる?
 A⑪:だめ!
 T⑬:(資料4のワークシート配布)
 こうしたら、正しい姿勢になるよというところに○をつけてください。
 A⑫:(児童Aは、3か所に○をつけた)

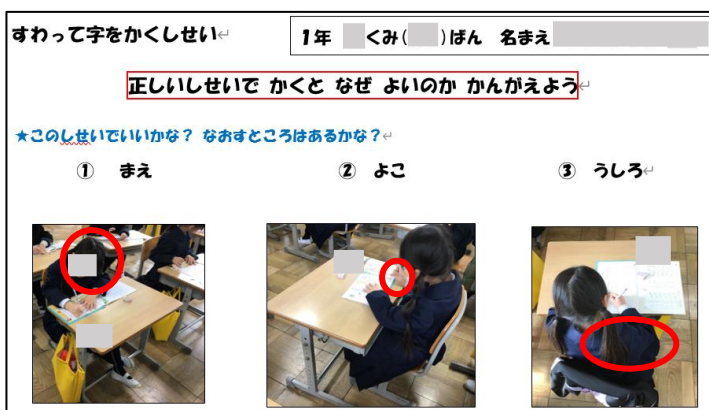
▲【資料4】児童Aが○をつけた3か所
 (鉛筆の持ち方、左手の位置、足の位置)

④展開2 自分が座って書いているときの姿勢写真を見て、正しい姿勢についてチームで話し合う

児童一人ずつ、自分の座って書いているときの姿勢写真をワークシート【資料5】で配る。前・横・後ろからの姿勢を確認できるようにした。

授業記録4

A⑬:…。(ワークシート記入に迷っている様子)
 チームメンバー:(児童Aにアドバイス)
 ここは足が出てる
 えんぴつのもちかた
 あとどこだろう?
 イスななめだしね
 書いてもいいよ
 A⑭:うん!(頭、手に○つける)
 チームメンバー:(児童Aにアドバイス)
 ここやった?やったね!
 A⑮:うん!(背中に○つける)
 チームメンバー:(児童Aにアドバイス)
 もうちょっとここはしっこすぎるね
 ん~これくらいかな?
 A⑯:(ワークシートにすぐ書き始める)
 えんぴつをつかうときまるくなっちゃうの

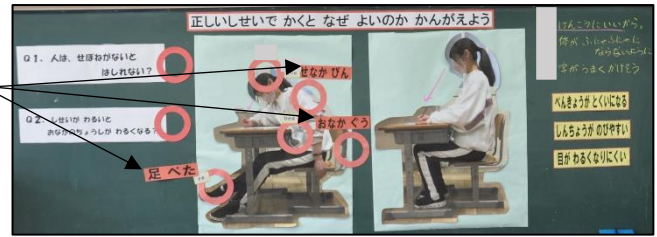


▲【資料5】児童Aが○をつけたところは、3か所。(頭が前のめり、鉛筆の持ち方、背中の曲げ方)

児童Aは、チームの友だちから客観的に姿勢を見てもらえたことによって、自分の姿勢について確認することができた。チーム学習での協働的な学びを通して、児童Aが安心して学ぶことができたことも授業記録A⑬~⑯でわかる。手立てiv)

「ぐー・ぺた・ぴん」の言葉が自然と子どもたち全体から出てきた。手立て iii)

【資料6】板書▶



⑤展開3 ゲストティーチャー（専門的知識のある養護教諭）から、姿勢についての話を聞く

専門的知識のある養護教諭から、正しい姿勢の在り方や生涯を通じて姿勢が身体にどう影響するのかを知る場を設定した。手立て ii) 正しい姿勢をすることの利点について3点ポイントに絞り、説明を受けた。1つ目「勉強がよくできること」、2つ目「身長がのびること」、3つ目「目が悪くならない」。児童Aは、うなずいて真剣に養護教諭の話聞いていた。

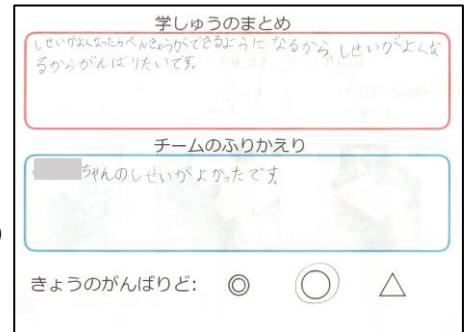
⑥展開4 書写体操の映像を確認しながら体操を実践し、チームでお互いの姿勢について確認

長時間座って書き続けられる体づくりのための体操(書写体操)を映像で確認し、実際に体を使って姿勢を確かめてよいことを助言した。自分の姿勢の欠点を知るために、自分の姿勢をチームの友達に見てもらうことを勧めた。「ぐー・ぺた・ぴん」のわかりやすい言葉も映像に出ている。手立て iii) 児童Aは、教師の動きを見た後、指示をよく聞いて笑顔でゆっくり動かした。時々、ワークシートの自分の姿勢を見て、考えている様子であった。

⑦整理 本時のまとめとチーム学習の振り返りをする

児童Aは、チーム学習で学びを深められたこと 手立て iv) と養護教諭の話を受けて 手立て ii)、「姿勢がよくなったら」「勉強ができるようになるから」「がんばりたい」といった前向きな振り返りが書かれていた。 【資料6】▶

児童Aの振り返り



(5) 研究の成果

① 研究の成果に関する手立ての検証

仮説Ⅰについて…「図書資料の活用(手立て i)」では、言葉で伝えるだけでなく、物語と挿絵がよく伝わる絵本・紙芝居の有効性を感じた。日頃から本に触れる機会をつくるのが大切であるとわかった。児童Aのようにイメージがもちやすいことで実生活に生かそうとできた点でもよい手立てであったと考察する。今後も図書資料の活用を継続していきたい。「専門的知識のある養護教諭から学ぶ(手立て ii)」では、正しい姿勢を保つことの大切さを知り、自分事として捉える機会となった。学習内容に応じて、専門的知識ある人の講話の取り入れ方を今後も考えていきたい。仮説Ⅱについて…「「ぐー・ぺた・ぴん」のわかりやすい言葉(手立て iii)」では、低学年にとって、わかりやすい言葉であったことと言葉を繰り返すことで、継続しようと意識づけさせることにつながった。「学習形態の工夫(手立て iv)」では、チーム学習を取り入れる場面をより増やしていきたい。子どもたちの自然な話し合いが必要に応じてできることをめざして教師のファシリテーターとしての役割を見直し、実践を今後も進めたい。

実生活で図書資料の活用ができる子どもたちの育成をより目指した実践を今後も続けていきたい。